



今回の
敵キャラ

リク・ルート

【必殺技】マウスピーカー

基本的に声がでかい。

自己PRになるとさらに声がでかくなる。

相手に伝わらないとだんだん声が大きくなり、納得するまで喋り続けるのでみんなのやる気がなくなります。

【考案者】鎌倉 嵩

京都芸術デザイン専門学生webデザインを専攻しています。

絵は下手ですが今、勉強中です。

たたかえ！ ヒガシヤマン

round 29



©大畠栄里

ヒガシヤマンの返し技

【必殺！ ティンカーベル!!】

——「就職」。ヒーロー養成所にかれこれ8年通い続ける永遠のモラトリアム青年・ヒガシヤマンの前で絶対に口にしてはならない言葉のひとつだ。ましてやリク・ルート君などという名前だけでもおぞましい生き物は、絶対にヒガシヤマンの前に現れてはいけなかつたのだ。「アタシ、ティンカーベル！お前みたいに就職活動する輩は、ネバーランド送りにして永遠に帰ってこれないようにしてあげるネ！」そう言うとヒガシヤマンはリク・ルート君をむんずと掴み、太平洋の遙か彼方へ鳥よりも飛行機よりも速く飛び去ってしまいましたとき。

東山青少年活動センターにひそかに存在するキャラクター・ヒガシヤマン。彼は闘う！
「愚か者よ。就職したくば俺の屍を越えてゆけ」

前途有望な若者を道連れにするのはやめよう。がんばれ、ヒガシヤマン！

文：筒井加寿子

ヒガシ ガシ

VOL.
29 ヒガシ
2011 SPRING



- 01**・たたかえ!ヒガシヤマン
- 02**・もくじ
- 03**・東山schedule
- 05**・【特集】東山再発見
- 08**・ヒガシヤマ Q&A
- 09**・ワークショップななめ読み
- 10**・おも検／季節のイラスト
- 11**・ステージサポートプラン
- 13**・Higashiyama Youth

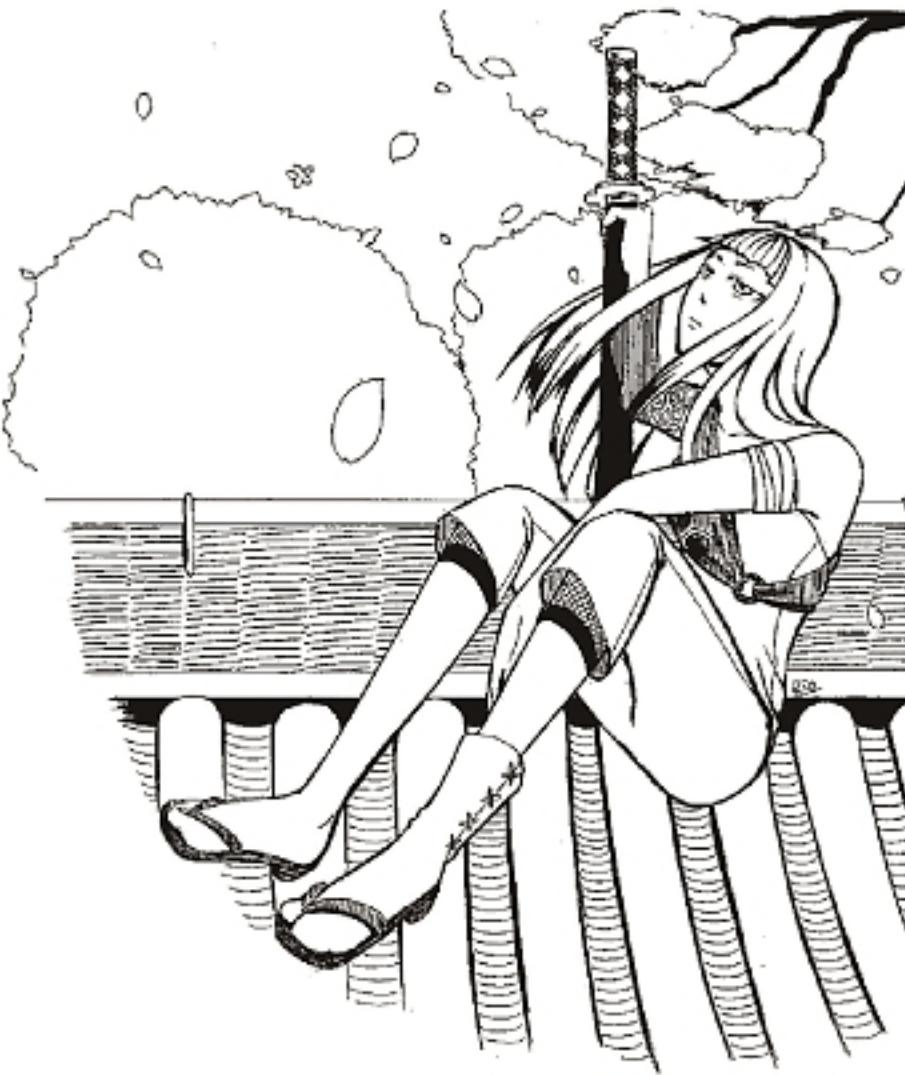
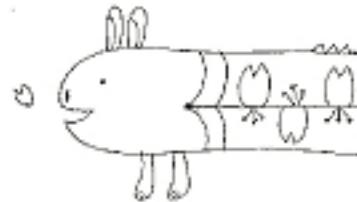


イラスト
水野里織【大阪デザイン専門学校1回生】

空腹を充たすために食べるスナック菓子のように、
東山の情報もかじってほしい。
ヒガシ(干菓子)のイメージからくる季節感や彩りも
添えて。ヒガシガシは、そんな情報誌です。

東山schedule 2011



① 工作室開放「ヒガシヤマ D E ものづくり」

	4月	5月	6月	
1	金	②	日	水
2	土	①	月	木
3	日		火	金
4	月		水	土
5	火		木	日
6	水		金	月
7	木	①	土	火
8	金		日	水
9	土	①	月	木
10	日		火	金
11	月		水	土
12	火		木	① 日
13	水		金	月
14	木	①	土	火
15	金		日	水
16	土	② ①	月	木
17	日		火	金
18	月		水	土
19	火		木	① ③ 日
20	水		金	月
21	木	①	土	火
22	金		日	水
23	土	①	月	木
24	日		火	金
25	月		水	土
26	火		木	① ③ 日
27	水		金	月
28	木	①	土	火
29	金		日	水
30	土	①	月	木
31			火	① ③

■は休館日です

創造工作室を使って、いろいろなものづくりができる空間を提供しています。電動ろくろ、電動糸のこ、ミシン、アイロンなど必要な道具が揃っているので、活用方法は使う人次第。陶芸については土の量り売りや釉薬提供サービスなどもあり、初心者にもおすすめです。ものづくりの場として気軽にご利用ください。

日 時：毎週木曜日17:00～21:00と毎週土曜日13:00～18:00
＊木曜日が祝日の場合は開催していません。

参加対象：京都市に在住、通学、通勤先がある中学生から30歳までの方

定 員：なし

参加費：無料
(材料は一部有料にて提供)

申込み受付：不要



② 東山アートスペースA・Bコース作品展「コノトキ」

月に一回、計36名のメンバーが集い、想いを紡ぐ時間。
まさにその瞬間、“コノトキ”に出会ってみませんか？
一年間の作品と共に、そんな素敵な時間を体感ください。

作品展 会期：4月1日(金)～16日(土) センター開館時間内
会場：京都市東山青少年活動センターロビー

写真展 会期：4月9日(土)～16日(土) センター開館時間内
会場：京都市中京青少年活動センター

☆どちらも自由にご覧いただけます。

③ 演劇ビギナーズユニット2011参加者募集

わたしも知らなかつたわたしに出会う

演劇ビギナーズユニットは、演劇初心者のための講座です。
参加した皆さんで、一つの舞台を創りあげます。

演劇に興味はあつたけどこれまで舞台に立つ機会がなかつた、
という方や、何か新しいことを始めたい、普段の生活にちょっと
物足りなさを感じている方へ。

表現の魅力、創る楽しさ、本格的な舞台に立つという貴重な
体験ができる、ここに、新しいステージがあります。

わたしの好きなわたし、わたしの嫌いなわたし、
わたしも知らなかつたわたしにも出会えます。

少しだけ勇気を出して、一步踏み出すきっかけにしてください。
たくさんの応募をお待ちしています。

講座日程:5月26日(木)~9月8日(木)全37回

毎週月・木曜日18:00~21:00

*祝日は15:00~18:00、8月30日(火)18:00~21:00

(講座日程以外に自主練習をする可能性があります)

*説明会/5月19日(木)19:00~20:30

*公演日/9月3日(土)・4日(日)

*公演準備日/9月2日(金)

募集期間:4月7日(木)~5月16日(月)

参加対象:京都市に在住か在学・在勤の中学生から30歳まで
の方で、演劇初心者の方、またはそれに準ずると
思われる方。

募集定員:17名(応募多数の場合は抽選、定員に満たなかつ
た場合は、5月16日以降も先着順で受け付けます)

参加費:30,000円(全37回の講座費用・公演費用一切込)

演出:山崎彬(悪い芝居/作家、演出家、俳優)

申込み:京都市東山青少年活動センターへ直接来館、
または電話・E-mailにて受け付けます。

公演会場:京都市東山青少年活動センター 創造活動室

共催:NPO法人 京都舞台芸術協会

④ 中劇研「春の合同公演」

中劇研(京都市中学校教育研究会演劇部会)は、
京都市内の公立・私立中学校演劇部の集まり。
日頃の活動の成果を発表します。

この催しは、「学校と青少年施設の連携」事業
として、創活番(青少年ボランティア)の協力で
実施します。

日 時:6月11日(土)・12日(日) 入場無料

場 所:京都市東山青少年活動センター
創造活動室

【①③の事業について】

対象:京都市に在住もしくは在学・在勤
されている13歳から30歳までの方

【②④の事業について】

対象:市民

【③の事業について】

受付日より、直接来館、または電話・E-mailにて
先着順受付。

いずれの事業も会場・問合せは京都市東山青
少年活動センターです。TEL 075-541-0619

表現活動へのお誘い～からだではなそう～
ボランティア募集!

5月から毎月2回、知的な障がいのある青少年の
余暇充実を目的とし、ダンサーと一緒にからだを
動かしながら表現するプログラムを実施します。

現在、一緒に表現活動を楽しみながら、参加者を
サポートしてくれるボランティアスタッフを募集
しています。障がいのある方と関わってみたい!
からだを使って表現することが好き!という方は
お問い合わせください。

対象:京都市に在住・在学・在勤されている
13歳から30歳までの方

東山再発見

特集

高台寺の近くにお店を構えるお土産屋さん
「COHAKU KAIRASHI」。

京都っぽいお土産とはちょっと違う「かいらし」モノがたくさん。地下スペースではギャラリーやワークショップを行っている素敵なお店を取材してきました。

今回お話を伺ったのは店長の渡辺美樹さん。お店のコンセプトやこだわりを伺いました。



「COHAKU KAIRASHI」店長 渡辺 美樹さん

●—なぜこのお仕事をされているのですか？

渡辺 ものづくりにずっと携わりたいなと思っていました。洋服よりもアクセサリーが個人的に好きで、藤井大丸のお店のアルバイトに応募して始めました。

最初は制作に興味があったのですが、制作は大変そうと思ったので、デザインの中で一緒に入ったりすることもあるのですが、主にブランドを作る方にまわっています。実際に手を動かして作ることはあんまりないですね。

●—お店をはじめたきっかけは何ですか？

渡辺 もともとアクセサリーのブランド“KAORU”というお店が藤井大丸にあります。その本店が12年目ですが、オーナーが京都出身で、ちょっと違った形で雑貨、お菓子、フレグランスなど、自分たちが「かわいい」と思うものをセレクトして販売しています。

このお店は去年の8月に出来ました。京都のお土産は和のイメージが強くて、「ザ・ジャパニーズ」という感じですよね。そうじゃなくて、このお店では和柄のものもありますが、もう少し可愛くて、舞妓さんをモチーフにしたものなど、今までになかったスタイルになっています。自分達のオリジナルや日本製のもので質が良いもの、デザインがかわいいものや少しこだわりのあるものを扱っています。また、オーナー、スタッフも含め海外によく行くのですが、海外のスーパーはテンションが上がって、ついついお菓子とかたくさん買ってしまいますよね。そうゆうノリで買ってしまうようなものを売りたいなと思っています。ですから、扱っている商品は幅広く、お菓子から雑貨、アクセサリー、アロマオイルまで。ご自分用にもお土産用にも“思わず欲しくなるモノ”をオリジナルで作ったり、セレクトして買いつけています。

●—具体的な仕事内容を教えてください。

渡辺 店作りのほぼ全般を行っているので、販売のお仕事が6割で、販売以外の商品の企画・入れたいなと思った商品の買付けが4割です。

地下のギャラリー利用の企画も行っています。そこは、他のスタッフからの紹介、向こう側からのオファーなどで成り立っています。ワークショップやチャリティーなども自分たちでいいなと思うところ、気になっているところに積極的にお声かけしています。

●—店内の商品もコラボ商品が多いようですが、知り合いや京都のお店が多いのですか？

渡辺 もともと知り合いのところもありますが、ほとんどは、「いいなあ」と思うお店を見つけて声をかけています。飴屋さんもたまたま近くに工場があって、飛び込みでお願いしました。ジュースは佐賀県から取り寄せています。人に紹介して頂いて、パッケージもかわいかつたので始めました。観光ついでに立ち寄って、ちょっと飲むのにいいですね。

●—商品の随所に使用しているロゴのデザインがかわいいですね。

渡辺 アートディレクターに京都をイメージして作ってもらいました。舞妓さんをイメージし、頭の花かんざしには八坂の塔や鳳凰などをあしらっています。本当は、五重塔の上に鳳凰はないのですがアートディレクターがイメージした京都はこんな感じだったようです。京都が大好きなスタッフばかりなので、「多くの人に京都をスキになってもらいたい」とそんな願いを込めています。

●—お店の名前である“COHAKU KAIRASHI”的由来はありますか？

渡辺 COHAKUはもともとコスチュームジュエリー、雑貨のブランドです。KAIRASHIは「かわいらしく」を京都弁で“かいらし”というので、これをくっつけました。多くの方に京都を感じてもらい、「思わず誰かに贈りたくなる“かいらし”モノたち」をショップコンセプトと

しています。従来のお土産モノではなく、大人可愛いアイテムを揃えています。京菓子や帆布など、京都の名店とのコラボ商品やデザイナーやスタッフのアンテナに引っかかった made in japan の可愛いアイテムです。

●—お店の外観と中の雰囲気では違った感じですよね。

渡辺 建物自体はぱっと見て、モダンな感じですが、中に入るとけっこういろんな色があります。黒、ピンク、水色、緑…色使いには気をつけています。オーナーは設計にも関わりました。



●—カラフルで素敵ですね。

渡辺 普通のお土産屋さんでないので「何屋さんですか？」と聞かれることも多いのですが、聞かれたら「お土産屋さんです」と答えます。ザ・ジャパニーズをイメージしている人にはちょっと違うかもしれないですね。

●—働いていくうえでのこだわりはありますか？

渡辺 販売のお仕事はわりと間口が広くて、誰でも出来ることをずっと続けて極めていくことは何年していくても難しいと思っています。仕事をするうえでお客様と一緒に自分も楽しめたらいいなと思います。ものを買う時に雑貨とかアクセサリーは食べられないし不必要なものですが、その不必要と言われるものを買ってもらうことだけでなく、ブランドのコンセプトや背景、その空気感も楽しんでいただけたらいいなと思っています。それが自分自身の楽しみでもあります。



雑貨屋さんは接客のイメージはないのですが、雑貨をどうゆう風に作っているかなどを紹介しています。特に観光客が8割ぐらいで、地元のお客さんや顧客さんもいらっしゃいますが、観光客の方の思い出の1ページに、かわいいお店があったと思い出していただければいいと思います。わりと、1人旅の方も多いのでお話ししたりすることもあります。

●—おもしろみとつらいことを教えてください。

渡辺 つらいことは、一日中立ち仕事ということもあり、体力的にハードです。

楽しいなと思うことは、やっぱりお客様に喜んで頂くことです。お客様は友達ではないですが、お客様と親しくさせていただいて、会ったら「元気?」とか声をかけ頂いたり、「この商品を選んでよかったわ」と言って頂いたりすることが嬉しいですね。自分が好きな物に囲まれているので、自分も楽しんで紹介できますし。

●—今後どのように展開ていきたいですか?

渡辺 この店に関してはもう少し知名度を上げることです。もっとたくさんのお客さんに来てほしいなと思います。世代を限らず男性女性、若い方やおじいちゃんおばあちゃんも立ち寄れるような場所になるといいですね。その為に、地下のギャラリーも、ワークショップをしたり、展示したり、気軽にいろんな人が立ち寄れる空間になり、幅広い人が立ち寄れるきっかけになるように企画しています。

また、先日の震災を受けて、チャリティーバザーを行う予定です。スタッフみんなで、私たちにできることを考え、私たちなりのやり方で被災者を応援したいと思っています。デザイナーが気まぐれで作ったもの、少しあなたに並ばなかったもの、アトリエに眠っていたなつかしのアイテムなど提供し、売上は日本赤十字社を通じて東日本大震災被災地へ寄付します。COHAKUはアクセサリーブランドなので、お腹を満たす事はできませんが、日本がすこしでも早く元気に、HAPPYになっていただけたら、有志スタッフでプロジェクトを進めています。

●—ありがとうございました。



COHAKU KAIRASHI

営業時間 10:00~19:00(不定休)

TEL 605-0823

京都市東山区東大路高台寺

南門通東入ル下弁天町58-3

TEL 075-541-5405

アクセス 京阪「祇園四条」駅下車徒歩約10分

HP <http://cohakukairashi.com/>



COHAKU
KAIRASHI KYOTO

☆ 4月1日(金)~10日(日)

『東日本大震災地支援チャリティーバザー』

●取材・編集

村田 麻衣(京都橘大学現代ビジネス学部3回生)

鈴木 けい(京都女子大学発達教育学部2回生)

ヒガシヤマ Q&A

今回は「今年ブレイクしそうな芸能人は？」です。
CMでよく見かける人、ブレイクしてほしい
という芸能人があげられました。

- 1.ブレイクしそうな芸能人
- 2.その理由

21歳/男性/たらちゃん

1.仁科仁美

2.CM連発して名前が売れたから。

21歳/男性/ニーナシンジ

1.大塚寧々

2.今の若手女優ブームを一蹴して欲しいから。

22歳/男性/スエ

1.茨田陽生(柏レイソル所属)

2.19歳とは思えない程の落ち着きとパスセンス！！
必ず遠藤保仁の後継者になれます！

20歳/女性

1.たんぽぽ

2.ってテレビで言ってました。

22歳/男性/芳村くん

1.中山功太

2.おもろい。

21歳/男性/みっしー

1.えびぞう

2.再ブレイク！

19歳/女性/あっちゃん

1.武井咲

2.最近よくテレビで見かけるから。

18歳/女性/DJトミー

1.桐山蓮くん

2.ドラマに出演しだして間もないから。



work shop

●概要

造形ワークショップ ～話をつくろう～

このワークショップでは、集まったみなさんで、ストーリーを考え、キャラクターを粘土やクラフトなどで作りました。粘土は素焼きした後、絵の具や釉薬で色付けし、本焼きをしました。その後、お話を空間を工夫して創りあげ、センターロビーにて2週間の作品展を行いました。参加したみなさんが話し合って、お話を作ったり、造形したりする過程で、お互いの考え方や捉え方、表現に出会い一緒に創作していく楽しさを感じていただくことを目指して実施しました。

【開催日時】2月19日(土)14:00~18:00

2月21日(月)・3月7日(月)

いずれも18:30~20:30

3月14日~27日 ロビー展示

3月28日(月)19:00~20:30

【参加者】6名

【参加費】3,500円(材料費込)

【ナビゲーター】An-newさん(陶土生物作家)
今村祐華さん(陶芸作家)

今回は、このワークショップに興味を持って参加してくれた、ヒガシガシの編集ボランティア谷口愛理さんからの報告です。



少しドキドキしながら参加したワークショップでしたが、みんなすぐに仲良くなり、とても楽しく参加することができました。まず、テーマをみんなで決めるところから始まり、その後2人ずつに分かれてストーリーを考えましたが、決まったテーマが「夢」と「コンプレックス」だったため少し苦戦…。

3チームに分かれていたのですが、そのチームの性格のようなものがストーリーにも表れていて面白かったです。次に、考えたストーリーを粘土を使って形にしていく作業。私は粘土を触るのは中学生以来だったので、久しぶりの感覚と、自分たちの考えた世界やキャラクターが形になっていくことに夢中になって作業をしていました。そして、粘土の色付けをし、背景などを作成。展示はロビーのどの空間を使ってもいいということで、展示を見た人にストーリーを想像してもらえたらしいなと思い、私たちのチームはロビーにある植木鉢も活用することに。今回は期間が長いワークショップでしたが、その分、みんなと仲良くなれたり、達成感もありました。ナビゲーターのAn-newさんと今村さんの指導もわかりやすく、戸惑うことなくできました。本当に素敵な時間を過ごすことができたと感じています。自分が作った作品は家で大事に飾りたいと思います。



おも検、

ヒガシガシボランティアが、ちょっと気になる噂を検証する、
おもしろ検証コーナーです。

「グラタン」
全然味に
朝鮮が強!!

【テーマ】ヨーグルト+めんつゆ=グラタン！？

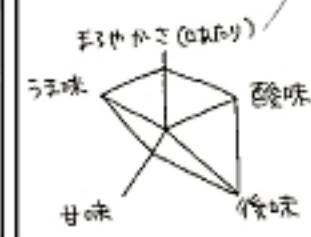
【レシピ】ヨーグルト（無糖）適量
めんつゆ 適量

- ①ヨーグルトをお皿に盛り、めんつゆをかける。
- ②材料を混ぜ合わせ、出来上がり。

「グラタン」



「ヨーグルト+めんつゆ」



見た目は豆腐…食べてみかつおだしが強くて、とてもグラタンにはならず。
試しにレンジで温めると、見事な分離でチーズに！ 思ったほど味は悪くない。
和風グラタンと思ってお試しあれ。
☆あなたの気になる噂を募集します。件名に「ヒガシガシおも検」とご記入の上、
東山青少年活動センターへメール(higashiyama@ys-kyoto.org)にてご応募ください。

●編集:谷口 愛理(京都橘大学現代ビジネス学部3回生)・水野 里織(大阪デザイナー専門学校1回生)

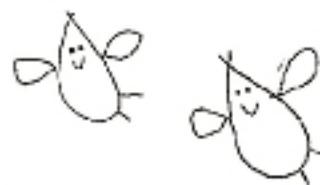
季節のイラスト

テーマ:春の妖精☆

可愛らしい妖精やのほほんとした妖精も。

色とりどりの花、暖かい太陽、気持ちの良い風、それらを妖精のように感じます。

春を呼びこんでくれるあなたの妖精はどんなのですか？



このコーナーでは、テーマにそったイラストを募集し、いくつかの作品を紹介していきます。

●編集:足立 由佳(京都橘大学現代ビジネス学部3回生)



STAGE SUPPORT PLAN

ステージサポートプラン

4月～6月

東山青少年活動センターが自主公演の支援をします。初心者から経験者まで、色々な人たちに東山にある創造活動室を利用して欲しい。だから次のようなグループの公演を応援しようと思いました。

- ① First Trial (活動経験の浅い人たち)
- ② チャレンジ! (何か新しいことに挑戦しようという人たち)
- ③ 東山のおススメ! (京都でがんばって活動している人たち)

★詳しいことのお問い合わせは→東山青少年活動センターへ

<http://www.ys-kyoto.org/higashiyama>

HPでも
ご覧頂けます。

応募方法

*応募には まず、担当者にご相談ください。

*企画書の提出(公演希望日、公演内容やセンターで公演をしてみたい理由を書いてください)

..... 公演しようとする月の4ヶ月前の20日まで

*個別面談 応募された全てのグループと面談(応募締切日より10日以内)

*決定 東山青少年活動センタースタッフとボランティアで選考の上、支援公演を行っていただけるグループを決定。(公演しようとする月の4ヶ月前の月の末日)



創活番ボランティア募集中!

「創活番」とはステージサポートプランのお手伝いをするボランティアチームです。この度、新メンバーを募集しています。何か新しいことを始めてみたいと思っている方におすすめです。照明や音響、舞台の知識も身につきます。詳しくはお問合せください!

■ LINKY

「All Living Things ～生きとし生けるすべてのものへ～

「すべては繋がっている」と考えてみてほしい。音楽、映像、ファッションショー、演劇を通してメッセージを伝える。



【HP】 <http://linky.ojaru.jp/>

4/ 9(土)16:00

4/10(日)11:00

入場無料

○お問合せ...

<http://linky.ojaru.jp/>



■ 剧団ソノノチ
「灰かぶりの路(みち)」

剧団ソノノチが第四作としてお送りするのは、甘い物へのアレルギーとそれにまつわる記憶のおはなし。童話「シンデレラ」から生まれた、あなたが感じる連作集。ぜひ見に来てください!

【HP】<http://sononochi.flop.jp>

4/29(金・祝)15:30
4/30(土) 14:00/18:30
5/ 1(日) 13:00

一般 前売1,000円
当日1,500円
学生 前売 500円
当日 800円

○お問合せ...
sononochi@yahoo.co.jp
(制作部)

■ 剧団「劇団」
「りばいばる、」

「もう一回だけやらねえか?
昔の仲間集めてさ」きがつくとかれはがくせいじだいの部室でおさけをのみ、ねむってしまいました。そして、また夢をみ

5/13(金)17:30
5/14(土)12:00/17:30
5/15(日)12:00

前売1,200円 当日1,500円
○お問合せ...
gekidan_gekidan@yahoo.co.jp

【HP】<http://gekidangekidanxxxxxxxx.jp/menufemu.html>

【HP(mobile)】<http://id36.fm-p.jp/382/gekidan2/>

※すべての演劇公演の開場は開演時間の30分前です。

■ 砂丘ユニットマルコレベル
「だめ人間のうた」作・演出今村七海

恋愛生活就職活動、何ひとつうまくいかない不器用な人々のおかしな日々。
ちょいと気楽にいきましょう!
マルコレベルが全力でゆる~くお送りするハートフル・ダメストーリー。

5/27(金)19:00
5/28(土)14:00/19:00
5/29(日)14:00

前売・当日共500円

○お問合せ...
080-4230-4283(制作・森)
marcolevel@gmail.com



Higashiyama Youth

東山センターを利用している青少年にインタビュー

今回お話を伺ったのはダンスパフォーマンスをしている「田中と辻井と村上」の辻井さんと村上さんです。ミーティングルームなどを利用されています。

去年、東山センターで出会った3人が「田中と辻井と村上」を結成。
よく似た3人の仲良しさが伝わってきます。

—活動を始めたきっかけは?

辻井:3人が出会ったのは、去年の「ココロからダンスWS」という東山センターの企画です。その公演が終わってからも、僕と田中がちょくちょく会ってたんですね。一週間に一回とか。でも、稽古するわけではなく、お酒飲んだりとかして。それから徐々に稽古したりして、舞台とかやりたいって、1月のC.T.T.という実験的舞台公演企画で3人で公演をしたんです。その後、村上はしばらくデンマークに行ってたんですけど、帰ってきて誘って、3人になったんです。ちょくちょく会ってたんで、公演名が「ちょくちょく会ってみた」というタイトルになりました。

—センターの印象、雰囲気や使い心地などは?

辻井:いや~、いいですね~。ほんま好きです。建物も好きやし、人も好きですね、どんどん顔見知りになっていくし、はい。やわらかい感じで好きです。ほんとです!(笑)



—今後の活動予定はありますか?

辻井:5月7日と8日に、前回参加したC.T.T.のセレクションというのがあります。1回のC.T.T.が2~3チームくらいなんんですけど、過去4回の12チームくらいから、観に来てくれた人が投票して、票数の多い上位2チームと、京都以外から来るチームとで、もう一度公演をします。

村上:その5月のC.T.T.のセレクションで、他の県から来るのが仙台なんですね。震災があったので、心配です。

—「ココロからダンスWS」に参加する前は何をしていましたですか?

辻井:もともと2人(辻井と村上)は演劇ですね。田中は映像からです。僕は大学からダンスを始めて、それまでは演劇しかしたことなかったです。

—演劇とダンスではどちらが面白いですか?

辻井:今は、断然ダンスですね。また6月にお芝居しますけど、ダンスの方が面白いです。

村上:私は演劇もやってましたが、高校が染色学科で、その時に美術分野をやってみたりとか、東京でお笑い芸人をやってみたりとか、いろんな表現方法を試してみたんです。アナウンスの勉強もしてみたりして。それで最終的に、私、体をあんまり使ってないなっていうところにたどりついで、じゃあ次は、体を動かすことにしぼってやってみたいなって思いました。

—表現方法としてのダンスということ?

村上:そうですね。何かを表現したいっていうのはあるんですけど、でも何を使って表現しようかなっていうことを探しながら、今はダンスって感じです。

—ダンスと演劇の通ずるところはありますか?

辻井:お客様の前でやるっていうのは大きいですね。だから、ダンスは楽しいんですけど、もしかしたら落語でもいいのかもしれないっていうくらい、いろいろやってみたいなと思っていて。お客様の前で、お客様と一緒に何かやるっていうのが楽しいです。

村上:見終わったときに感想などを言ってくれると、また

新しいつながりがその人とできて、それが楽しいなって思います。昔はもっと、自分を前に出そうっていうのがあったんですけど、今は、お客様をどう動かそうかなっていうのにシフトしていってる気がします。

辻井：常に、ダンスでの振りもそうですし、外に向かう感じっていうのは共通したい事であるかもしれないですね。

——喧嘩したりはしないんですか？

辻井：しないですね。村上が来てからさらに雰囲気がやわらかくなりましたね。ずっと田中と2人だったので。

喧嘩はしていないんですけど、僕ら演出もないし、構成もないんで、アイディアをどっちかが言って、気に食わなくて、とりあえず一回やってみる。なるべく否定をしない関係性で。そこは難しいですね、いい面もあれば悪い面もありますし。

——今後の自分の目指すところ、憧れている人は？

辻井：僕はもう、気持ちいい体になりたいなとは思いますが。生活しても自然体で、楽に生きたいなど。楽が好きなんです。なんかこう、普通にストンって、なんかお地蔵さんみたいに、いるだけっていう。

村上：いないですね。たぶん私が創っていくんだと思います。一個に絞った人生じゃなくて、名前で生きていくような人になりたいです。

——もし誰かが入りたいって言って来たら？

辻井：今のところは無しですね、僕は。

村上：そうですね。私以外の、2人の体を知るのだけで精いっぱいなので、一つのステージを創ろうと思ったら、その人の体を知らないとなかなか発展していかないので。でも、ちょっとフレッシュさは欲しいなとは思います。



——今後のPRはありますか？

村上：3人で、大切にしたいって言っているのは、単なる仲良しクラブっていうんじゃなく、その仲良しな雰囲気をお客さんも、楽しんでもらいたいということです。次の公演は、前回と内容は変えるんですけど、タイトルは一緒に「ちょくちょく会ってみた」です。新作をするからタイトルはどうしようかって話したんですけど、このままでいいんじゃないかなっていう結論になりました。ちょくちょく会ってるのは変わらないし、また知らない部分を知れたり、変わっていくから、それで新作ってことでいいんじゃないかなって。

辻井：ちょくちょく会った感じと、この3人だというところがちゃんと出ればいいかなと。この3人だから出来ることをしたいなと思っています。

——今日はありがとうございました。

取材：谷口 愛理(京都橘大学現代ビジネス学部3回生)

編集：鈴木 けい(京都女子大学発達教育学部2回生)